

親子関係と子どもの自己活動(6)

— いたずらについて —

中原弘之・岡部恭子*・菊地京美*・富張理子*・臼井智恵子*・倉川奈穂美*
 杉山庸子*・竹之内美登里*・沼田育子*・古沢悦美*・三浦千晶*・古賀仁之*
 山岸みどり*・若林政代*・渡邊達哉*

問題の所在

今日の社会のように高学歴化が進行し、もはや人間が吸収しきれない量の量や速さで情報が提供され、競争社会としての様相がますます激化することによって、このような大人社会にやがて適応を求められるであろう子どもたちは、少なからず影響を被ることになった。それは、義務教育の始期以前において‘英才教育’とか‘先取り教育’の形になって、かなり早くからの必要性が喧伝されており、親の関心を集めたり、親を不安に陥れたりしている。このために、就学前に子どもが獲得しなければならない情報が多く、‘遊び’とか‘いたずら’といったいわゆる‘道草’は極力排除されるべき生活時間帯の一つとされる。この道草を体験できた子どもにとって、そこから習得していた多くの内容が、今の子どもには欠落していること、および、自然とのふれ合いの減少や同年齢集団による遊びの減少なども加わって、それが何んらかの問題となって現われることになろう。

このようなところに、例えばいじめの今日的特色の一つである陰湿化の原因が潜んでいるのではないであろうか。‘いたずら’を、子どもが自発的に外界に取り組む第一歩であり、知的発達や性格づくりの基礎である¹⁾と位置づけるとき、現在の子どもの‘いたずら’の実態を探ることは、遊びについて研究する上でも重要なことである。

目 的

従来、われわれは、子どもの遊びについての概念に対する認知や、その許容の程度を把握するための測定用具の開発を行ない、子どもの行動意欲との関係を分析するための準備が整えられてきた。²⁾³⁾⁴⁾⁵⁾⁶⁾このような作業の中で家族変数との関係について、多少の分析も行なってきた。今回さらにこれに加えて、見方によっては、遊びの概念と共通面を有すると思われる子どものいたずらについても取り上げることにした。現在の子どもが、どのようないたずらを行ない、また、それが親によってどの程度許容されているかを明らかにし、子どものいたずら経験が、子どもの家族変数や行動変数といかなる関係を有しているかを分析することは興味深いことである。そこで今回は、いたずらの実態、許容の程度を捉える用具の開発を中心として、現在の子ども社会の特色を明らかにすると同時に、将来、家族変数、遊びやいじめ変数との関係を探るための基礎資料を得ることを目的とする。

* 茨城大学教育学部‘遊び’ゼミナール

方 法

1 項目の収集

子どものいたずらに関する調査に用いる項目の作成は、研究者たちによるアプリオリな方法よりも、現実に子どもたちが経験しているいたずらを、収集整理することによって導き出す方法を選ぶことにし「親や先生に見付かれれば“注意を受ける”または“しかられる”と思うような‘いたずら’や‘遊び’にはどんなことがありますか。あなたの小学生のころのことを思い出して書いて下さい。あなたがやらなかったことでもかまいません。」という教示で、栃木県の公立中学2校の1,2年生733名を対象に回答を求め678名の有効回答を得た。その結果、出現頻数366の「火遊び」を最高に、出現頻数3以上のいたずらや遊びの項目を142種類得ることができた。

2 項目の選定

まず、出現頻数が低く特殊性の強いもの(例えば、「お座敷遊び」など)や、出現頻数が高くても犯罪性の強いものと触法行為(例えば、「選挙ポスターのいたずら」、「万引」、「シンナー」など)は除外し、さらに類似する内容のものは最も代表的と思われる項目にまとめ、48項目を選定した。これらの項目が、親からどの程度の許容が得られるかを予備的に調べるために、巻末の付表1に示したような調査用紙を作成して、東京都及び茨城県居住の母親合計124名の協力を得て調査を試みた。その結果、許容度の最も高かった項目は「先生にあだ名をつける」(86%)であり、最低は「火遊びをする」を含め、許容度0%の項目が6項目あった。そこで許容度60%以上の10項目と許容度5~16%の10項目を選び、前者の10項目には許容度が低くなるような場面条件を、また、後者の10項目には許容度が高くなるような場面条件を加え、許容度の極端な偏りを調整するための手続きを経て、親と子どもの各々に実施する計画上、付表2及び3のような小学生のいたずらについての20項目からなる調査用紙を作成した。この付表からわかるように、男児に対する許容度と、女児に対する許容度とが相違すると思われたので、対男児用の回答欄と対女児用の回答欄とを別々に設け、後の分析に備えることにした。

3 本調査の実施

以上のような手続きを経て、調査用紙が準備されたので、親と子どもとが別々の対象校ではあったが、子どものいたずらに対する許容度についての本調査を実施した。親データは、たまたま1986年12月に中原が茨城県の公立A小学校において講演を依頼されて訪問した折りに、出席者の保護者の協力を得て回答してもらい、その場で回収した。表1が回答者数と有効回答数である。回答者の中には父親、母親以外の方も45人分含まれていたが、今回は、それらの回答はとり上げなかった。

一方、子どもデータについては、茨城県公立B小学校に依頼し、5年生及び6年生の全クラスの児童から回答を得ることができた。実施は学校側に一切を任せ、1987年1月に、適宜実施してもらい、後日回収した。

表1 親のデータ(茨城県公立A小学校)

回答者と 回答数	父 親		母 親	
	対男児	対女児	対男児	対女児
有 効 回 答 数	91	96	46	54

表2 子どものデータ(茨城県公立B小学校)

学年	性別		計
	男 児	女 児	
5	92	80	172
6	110	107	217
計	202	187	389

結 果 と 考 察

今回の調査で項目ごとの回答数を合計し、その許容率を算出して、図1. 図2. 図3に示した。さらに、各回答群の許容選択の項目数の分布状況を示すと、表3のようになる。これらを全体的に見てみると、表3の中央値が示しているように、予想通り男児に対する許容度が女兒に比べて、著しく高いことが分かる。また、5年生よりも6年生の方が、母親よりも父親の方が、そして、親よりも子どもの方がいずれもそれぞれ許容度が高くなっている。

表3 各回答群の項目選択数の分布

回答群		小5		小6		父 親	母 親
		男	女	男	女		
対男児	範囲	0~17	0~19	0~18	0~19	0~16	0~14
	中央値 Q	6.00 2.81	4.23 2.17	7.00 2.98	6.88 2.54	5.19 2.21	2.42 2.63
対女兒	範囲	0~10	0~12	0~14	0~12	0~12	0~9
	中央値 Q	2.33 1.74	2.11 1.23	2.83 1.93	3.72 1.55	1.14 2.03	0.75 1.26

次に、許容選択された項目を回答群ごとに見てみると、項目によって選択度が異なるが、回答群のいずれにも一貫して選択数が高かったり低かったりする項目と、回答群によって選択数がまちまちの項目とがある。父親と母親の許容度を比べた図1では、さきに指摘したように父親、母親共に女兒よりも男児に対して許容度が高い傾向がある

が、項目別では男児に対して許容度の高い項目として「2. 大人のいない原っぱで、爆竹をならす」

「3. 牛乳を飲んでいる人を笑わせる」「7. 雪合戦で泥のついた雪を投げる」「10. トンボを糸で縛って、飛ばしながら遊ぶ」「15. 屋根よりも高い木に登る」の5つである。これらはいずれも父親と母親で一致している。しかし、女兒に対する許容度の高い5項目については両親間で異なっている。

5年生と6年生の許容度を比べた図2を見てみると、男女とも6年生の方が許容度が高い。しかし、男児、女兒に対する許容度の傾向は類似している。また、図1で親の許容度が低かった、「12. 信号の押しボタンを渡らないのに押す」「14. 卒業記念に学校の机にしるしをほる」は、5・6年生においては高い許容度を示している。一方、「8. 母親の大切にしている口紅を、クレヨンがわりにして絵を描く」「19. 貼りたての障子をおもしろがってわざとやぶる」の私的場面の項目については、なぜか親、子どもいずれも低い許容度を示している。

次に、男児と女兒の許容度を比べた図3を見てみると、対男児、対女兒の許容度の傾向は類似している。図2の示す特色を考慮に入れると、年齢によるいたずらに対する許容度には差がないが、性別によるいたずらに対する許容度には差がある。つまり、自分自身で自らの性役割を決めているようだ。

図1と図3によって、親と子どもの回答を比較してみると、図1からは「11. 誰も見ていないので土足のまま校舎に入る」「12. 信号の押しボタンを渡らないのに押す」「14. 卒業記念に学校の机にしるしをほる」「17. よそのクラスで授業をしている時に、わざと廊下でふざける」「20. 給食の準備をしているそばで、プロレスごっこをする」の5項目は、どれも公共的な事に対する許容選択の項目といえよう。これら公共的なことに対しての父母の許容度は、2~16%と低いことが分かる。それに対し、図3から子どもの許容度を見ると「12. 信号の押しボタンを渡らないのに押す」「14. 卒業記念に学校の机にしるしをほる」の項目において許容度がかなり高いことが分かる。つまり、私的場面と公的な生活場面ということについていたずらを分けて考える時、子どもは私的、公的区別なく許容的であるのに対し、親の回答は、公的な面で迷惑さが大きいと思われるいたずらについては、子どもと回答傾向を異にして許容度が著しく低くなっている。

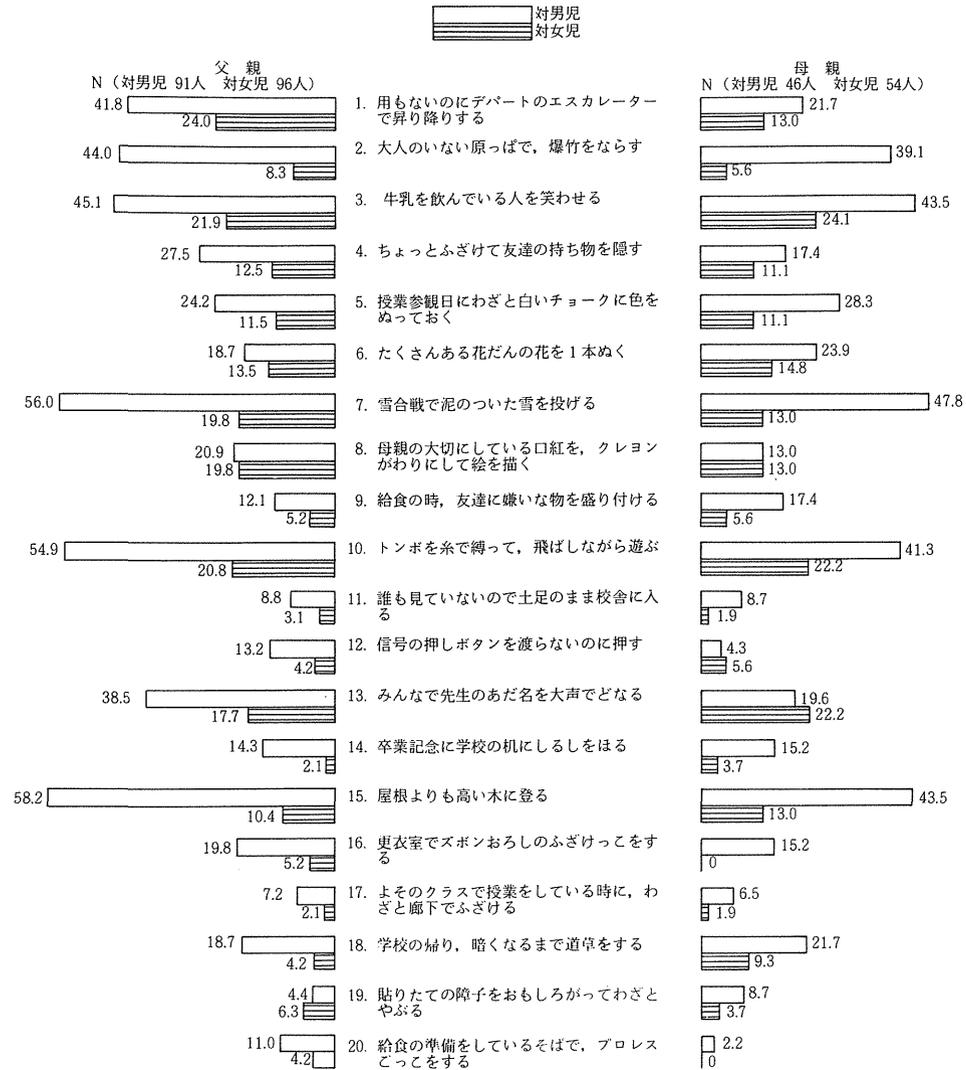


図1 いたずらに対する許容度(%) 父親と母親の比較

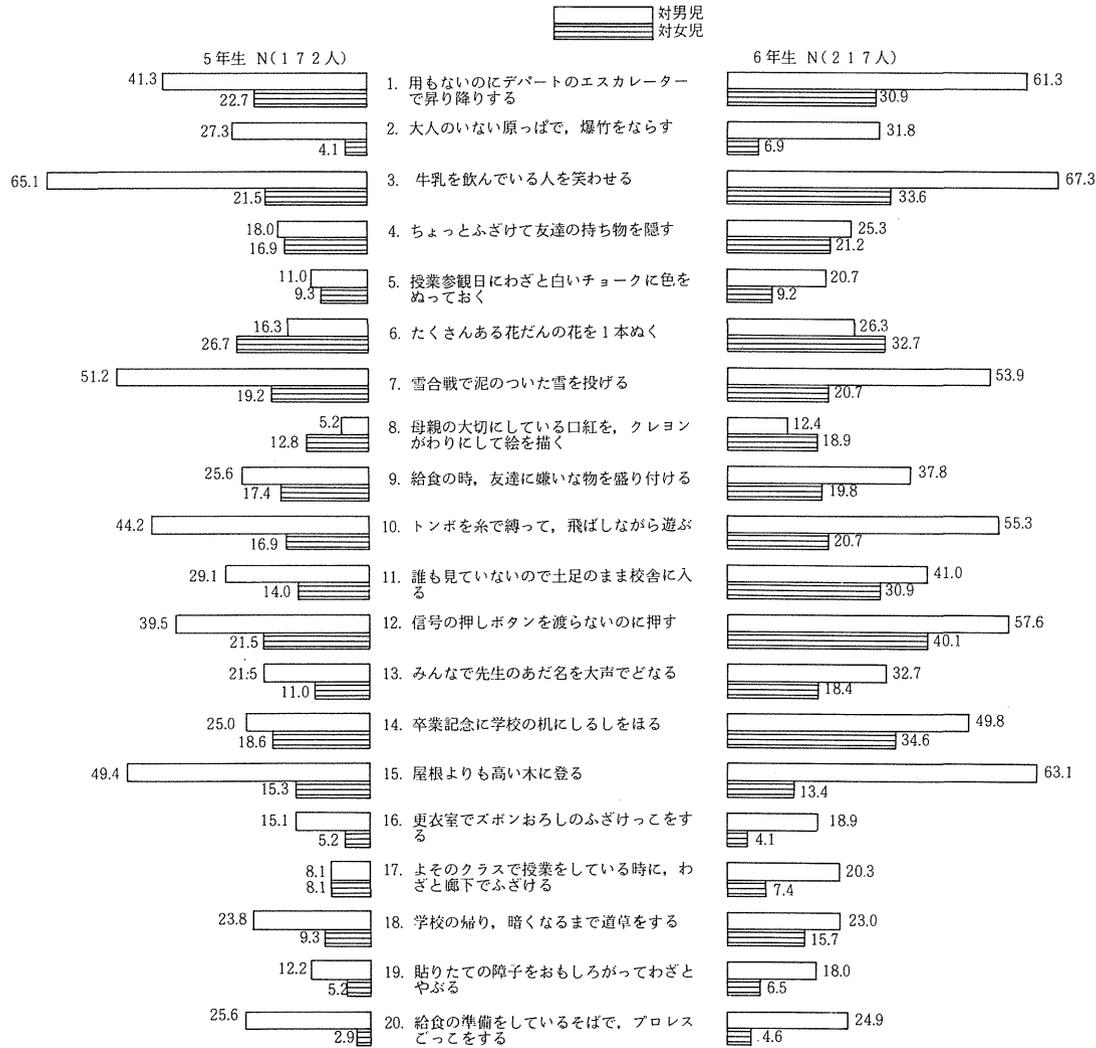


図2 いたづらに対する許容度(%) 5年生と6年生の比較

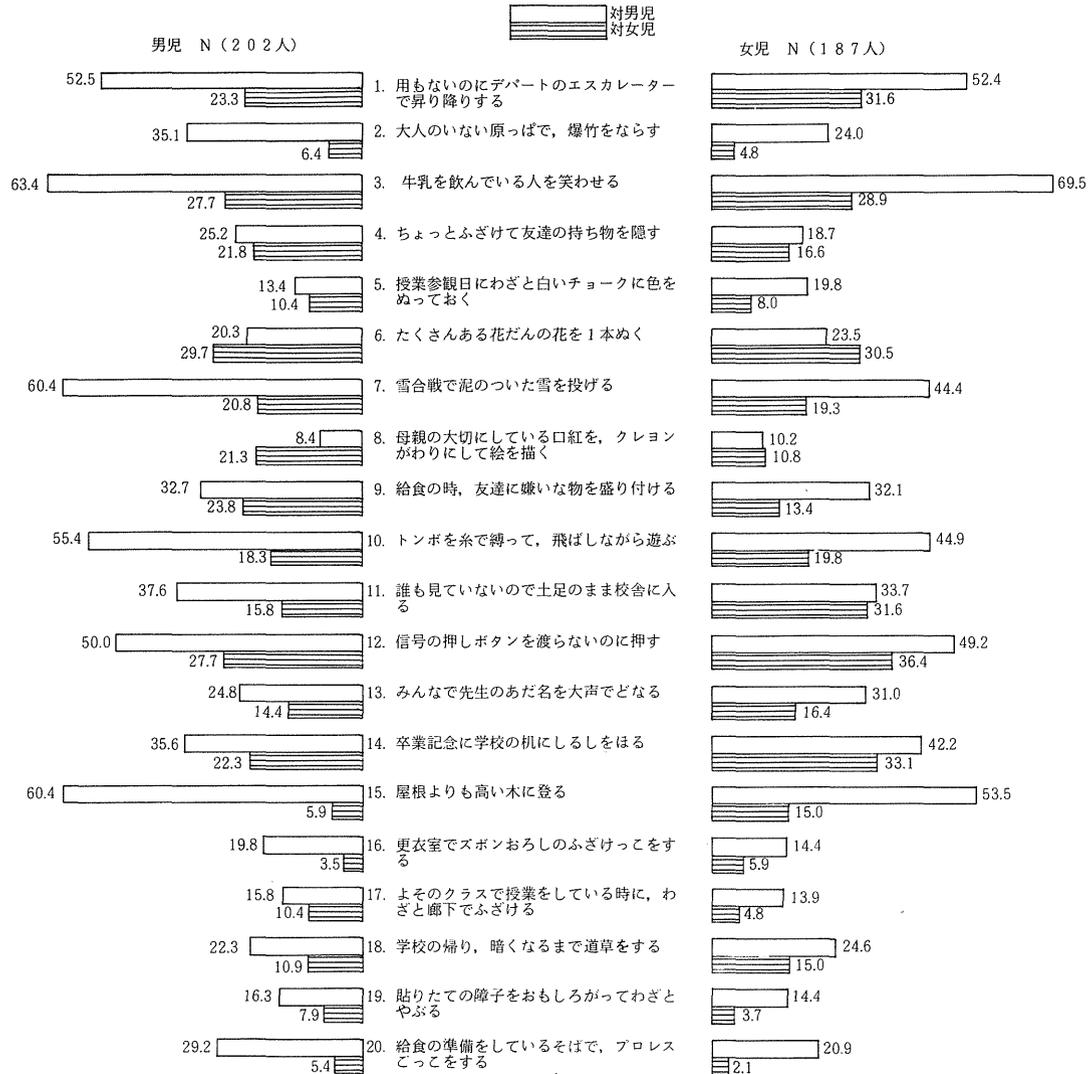


図3 いたずらに対する許容度(%) 男児と女児の比較

ま と め

本研究では20項目の子どものいたずらを取り上げ、親と子どものいたずらに対する許容度について分析を行なった。いたずらの許容度の指標としての選択項目数の中央値によると、親子とも女兒に対してよりも男児に対しての許容度が高かった。また親の意識としては、父親の方が母親よりも子どものいたずらに対して寛容であった。子ども自身のいたずらに対する許容度は親よりも高く、また5年生よりは6年生の方が高かった。項目別の分析では、いたずらの質を公的・私的の分類をしても、子どもについてはその許容度に差は見られなかった。しかし、親子のいたずらに対する許容度は、総じてわれわれが予想していたよりもはるかに低く、興味深い結果が得られた。

今後は、遊びへの許容度との関係や家族変数との関係、子どもの行動変数との関係などについてもデータを収集し、分析を進めていきたいと考えている。

参 考 文 献

- 1) 森 重敏・星美知子・塩川寿平(1977)『児童文化』 同文書院
- 2) 中原弘之(1980)「親子関係と子どもの自己活動(1)ー子どもの遊びに対する態度尺度の作成ー」『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』29, pp. 165 - 179
- 3) 中原弘之ほか(1981)「親子関係と子どもの自己活動(2)ー子どもの遊びに対する子どもと親の意識ー」『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』30, pp. 107 - 122
- 4) 中原弘之ほか(1982)「親子関係と子どもの自己活動(3)ー子どもの遊びに対する親の意識と子どもの行動ー」『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』31, pp. 169 - 184
- 5) 中原弘之ほか(1983)「親子関係と子どもの自己活動(4)ー‘遊び’概念の輪郭と質問形式の検討ー」『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』32, pp. 129 - 145
- 6) 中原弘之ほか(1985)「親子関係と子どもの自己活動(5)ー父・母・子 関係についての予備的研究ー」『茨城大学教育学部紀要(教育科学)』34, pp. 297 - 314

付表 1

子供の「いたずら」に関する調査

おねがい

私たちは、子供のいたずらが昔に比べて、どの様に変化しているかについて研究しております。次に、今の小学生がするいたずらが48項目並べて書いてあります。

それらの中でこの程度のいたずらならば、一般的にみて許されるであろうと思うものの () の中に○をつけて下さい。

昭和61年 9月

茨城大学教育学部発達心理学研究室

中原 弘之

給食の時友達に嫌いな物を盛りつける ()	白いチョークに色をぬる ()
親のさいふから黙ってお金をとる ()	落とし穴をつくる ()
インターホンを押して逃げる ()	花だんの花をぬく ()
いすの上に画びょうを置く ()	金の貸し借りをする ()
電話でいやがらせをする ()	子供だけで遠出する ()
牛乳を飲んでいる時に人を笑わせる ()	スカートめくりをする ()
駄菓子屋の品物を黙ってもってきってしまう ()	信号の押しボタンを渡らないのに押す ()
止まっている車にキズをつける ()	授業中に消しゴムのかけらをとばす ()
ズボンおろしをする ()	すわろうとしている人のいすを引く ()
ボクシングごっこをする ()	線路に小さな石を置く ()
土足のまま校舎に入る ()	デパートのエスカレーターで遊ぶ ()
先生にあだ名をつける ()	ドアに黒板消しをはさんでおく ()

時計やラジオを分解して こわす	()	道草をする	()
トンボに糸をつけてとばす	()	たばこを吸う	()
人の背中に値段のシールを はる	()	廊下でふざける	()
げた箱の友達のくつをそっ と入れかえる	()	不幸の手紙を書く	()
黙って母の化粧品をいじる	()	寄り道をする	()
買い食いをする	()	高い木に登る	()
友達の持ち物をかくす	()	爆竹で遊ぶ	()
机にらくかきをする	()	コックリさんで占う	()
酒を飲む	()	障子をやぶる	()
田畑で遊ぶ	()	泥を人にぶつける	()
机をけずる	()	プロレスごっこをする	()
火遊びをする	()	よその家の柿をとる	()

付表2

現代の子供像に関する調査

お 願 い

私たちは、子供の“いたずら”に対する許容度について分析をしております。ご多用のところ、ご面倒なお願いをして申し訳ありませんが、下記の質問に、ご回答の上、お子さまを通して学校までご提出下さるようお願い申し上げます。

昭和61年12月

茨城大学教育学部発達心理学研究室

中原 弘 之

次に小学生がやっている“いたずら”が20項目選んで並べてあります。これらの中で、まず男の子なら、「この程度のいたずらならば黙認できる」と思う項目があれば、下の(例)にならって、()の中に、○を記入して下さい。次に女の子についても同様に、()の中に○を記入して下さい。

※次の の中の該当するところに○をつけてください。

ご回答者とお子さまとの関係	父, 母, その他
ご回答者の年齢	34歳以下, 35~44歳, 45歳以上

- (例) 人の背中にシールをはる (○) ((○))
- 1 用もないのにデパートのエスカレーターで昇り降りする () (())
- 2 大人のいない原っぱで、爆竹をならす () (())
- 3 牛乳を飲んでいる人を笑わせる () (())
- 4 ちょっとふざけて友達の持ち物を隠す () (())
- 5 授業参観日にわざと白いチョークに色をぬっておく () (())
- 6 たくさんある花壇の花を1本ぬく () (())
- 7 雪合戦で泥のついた雪を投げる () (())
- 8 母親の大切にしている口紅を、クレヨンがわりにして絵を描く () (())
- 9 給食の時、友達に嫌いな物を盛り付ける () (())

- | | | |
|--------------------------------|-----|-------|
| 10 トンボを糸で縛って、飛ばしながら遊ぶ | () | (()) |
| 11 誰も見ていないので土足のまま校舎に入る | () | (()) |
| 12 信号の押しボタンを渡らないのに押す | () | (()) |
| 13 みんなで先生のあだ名を大声でどなる | () | (()) |
| 14 卒業記念に学校の机にしるしをほる | () | (()) |
| 15 屋根よりも高い木に登る | () | (()) |
| 16 更衣室でズボンおろしのふざけっこをする | () | (()) |
| 17 よそのクラスで授業をしている時に、わざと廊下でふざける | () | (()) |
| 18 学校の帰り、暗くなるまで道草をする | () | (()) |
| 19 貼りたでの障子をおもしろがってわざとやぶる | () | (()) |
| 20 給食の準備をしているそばで、プロレスごっこをする | () | (()) |

ご協力ありがとうございました。

